

平成24年度
実施事業

事務事業名 文化財保護経費

区分	No	名称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	3	市民の個性ある文化活動と文化を育む
施策	2	文化の保存・継承
小分類	1	歴史の伝承と活用
主要な施策	2	②埋蔵文化財の保管、展示施設の整備と学習会の開催
事務事業番号	001	事業開始年度 昭和 45 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名	教育部	グループ名	社会教育グループ
-----	-----	-------	----------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	郷土を形作る文化財の保護と活用を図ることにより、ふるさと登別に対する理解を深め、大切にすることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	市民に対する指定文化財等の周知、文化財の保護活動、活用等を実施する。 ◎市指定文化財登録解除（札内神楽獅子舞、保存会解散のため）：1件 埋蔵文化財事前協議（進達・試掘調査・工事立会調査・発掘調査）：2件 縄文出前講座等の普及事業（市内の小学校及び各種団体等）：12件 市民を対象としたアイヌ文化講座：1件 市民を対象とした古文書教室：1件 遺跡の変更・登載手続き 刀剣類・史跡名勝天然記念物等の事務手続き など
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	登別市を形成している多様な文化を理解するため、埋蔵文化財、古文書など、市が保有する文化財の保護・活用を図っていく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	文化財保護法 登別市文化財保護条例・登別市文化財保護条例施行規則

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	180	338	325	325	325
事業費 合計			180	338	325	325	325

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果指標	① 登別市指定文化財数（年度ベース）	件	目標値	7	7	6	7	8
			実績値	7	6			
	②	目標値						
		実績値						

比較	《 Check 》
平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等	左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等
<p>①アイヌ文化に対する理解の不足</p> <p>②片倉家関係や村治類典などの古文書などの整理・活用が進んでいない</p>	<p>①市民向けのアイヌ文化講座を継続して行うことにより、歴史・文化・社会的な意味においてアイヌ文化を理解する市民が増加する。</p> <p>②-1引き続き古文書教室を開催し、古文書を解読できる市民を育成することにより、解読が進み、姉妹都市白石市との関係や登別市のあゆみについてより具体的に把握することができる。</p> <p>②-2平成25年度から歴史資料である行政文書「村治類典」が教育部に移管されるため、市民へ公開できるよう規定の整備や内容の精査を行う。</p>

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可）		《 Check 》
1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市が主体に行うべき事業である <input type="radio"/> ② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である <input type="radio"/> ③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である <input type="radio"/> ④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	判断理由及びその他所見 法律（文化財保護法）で義務付けられており、文化財は国民共有の財産であることから、今後も市が事業主体として保護と活用を図っていくことが妥当である。
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 市民、団体等から具体的な要望がある <input type="radio"/> ② 市民アンケートの結果から必要性が高い <input type="radio"/> ③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い <input type="radio"/> ④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	判断理由及びその他所見 歴史や文化はまちを形成する要素の一つであり、これらを保護・活用していくことは、将来的なまちの価値を高めるためにも必要性が高い事業といえる。
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/> ① 低予算、少労力で高い効果をあげている <input type="radio"/> ② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い <input type="radio"/> ③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない <input type="radio"/> ④ 将来的に効率性を向上できる	判断理由及びその他所見 講座は、市の学芸員や派遣事業を活用して実施することにより低予算化を図っている。学芸員による長期的な文化財の保護・活用が図られることにより効率性が高まる。
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/> ① 成果指標の向上が見られる <input type="radio"/> ② 市民、団体等の声から成果を感じられる <input type="radio"/> ③ 目に見える形で成果があがっている <input type="radio"/> ④ 成果の把握は困難である	判断理由及びその他所見 講座参加者などから、登別市の文化財に対する価値や関心についての声を聞いている。

①担当グループによる評価		《 Check 》
維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	地域に根ざす心豊かな生活を送るために、ふるさと登別に関連する文化財の保護・活用は、地方公共団体の責務であるため、今後も維持していく必要がある。

②行政評価会議による評価		《 Check 》
維持	備考	